

第3回前期定例会（決算審査）のあらまし

▶10月10日以降の前期定例会についてお知らせします。

決算特別委員会（10月9日設置）では、10月15日、16日に分科会ごとに現地調査や審査が行われました。また、10月23日には各分科会主査から報告を受けた後、総括質疑を行いました。

10月28日の本会議では、決算特別委員会の審査結果について委員長から報告が行われた後、討論と採決が行われ、決算に関する6議案は全て可決・認定されました。

第3回後期定例会のあらまし

▶令和7年第3回後期定例会は、11月21日から12月12日までの22日間にわたって開催されました。

※第3回後期定例会の詳細（議案、賛否など）は、こちらの二次元コードから▶



▶議案

11月21日には、知事から、人事委員会勧告に基づく給与改定に伴う増額や、市街地へのクマ出没抑制のための緊急措置として、河川伐木による緩衝帯の整備に係る経費等、**68億8,854万円を増額する一般会計補正予算案など27議案**が提出されました。11月28日には人事案件**1議案**が提出され、12月12日には、物価高騰対策として、LPガス利用者の負担軽減や、医療・介護・福祉施設などへの支援に係る経費等、**388億2,707万円を増額する一般会計補正予算案**及び人事案件**2議案**の計**3議案**が提出されました。

議会からは、委員会提出議案として、条例案**1議案**、意見書案**2議案**の計**3議案**が発議されました。

▶質疑及び一般質問

12人の議員による質疑及び一般質問が行われ、県政全般について活発な議論が交わされました。（2面参照）

▶常任委員会・特別委員会

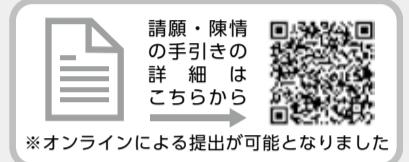
各常任委員会、各特別委員会が開催され、付託議案や所管する事項などについて審査を行いました。

▶議決

議決は、11月28日及び12月12日に行われました。

知事から提出された議案は、全て可決・同意されました。

議会から発議された議案は、いずれも可決されました。また、21件の請願が採択されました。



※オンラインによる提出が可能となりました

▶可決された主な議案

- 令和7年度群馬県一般会計補正予算（第5号）（第6号）
- 県議会議員の議員報酬等支給条例の一部を改正する条例
- 群馬県政治資金規正法関係手数料条例の一部を改正する条例

▶可決された意見書

- 地域における訪問介護サービスの維持・確保を求める意見書
- A重油に対する燃料油価格定額引下げ措置の継続を求める意見書

若者の政治への関心を高める取組



ガチかける GACHI高校生×県議会議員

※GACHI（ガチ）：
群馬県議会アクティブ・シチズンシップ・ハイスクールの略

群馬県議会では、若者の政治への関心を高めるため、議員が高等学校等を訪問し、生徒と意見交換する事業を、平成29年度から実施しています。

～政治を知らなきヤソンをする！～を開催

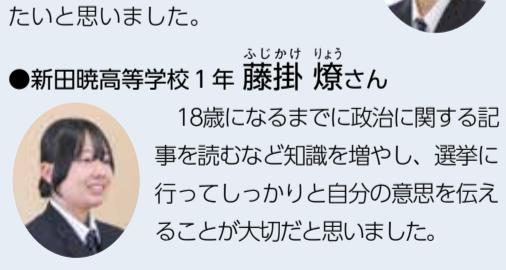
議員が、政治や選挙の仕組みについて、○×クイズを交えて分かりやすく解説した後、生徒からの様々な質問に答えます。
県内すべての高等学校及び高等部のある特別支援学校を対象に募集をしており、今年度は14校から申込をいただきました。
11月4日からスタートし、2月上旬にかけて順次実施していきます。



県立しろがね特別支援学校（参加議員：あべともよ議員、牛木義議員）

主なやりとり（Q：生徒 A：議員）

- Q 県民の皆さんからどんなことをお願いされますか。
- A 道路の補修や、道路にはみ出した木の処理など、道路の安全に関係するお願いが多いです。
- Q 議員になってから失敗したことはありますか。
- A 日々、小さな失敗はあります。しかし、その失敗を良い方向に直せれば、それはもう失敗ではないと思います。
- Q どうすれば議員になれますか。
- A なぜ議員になりたいのか、みんなのために何をしたいのかを分かってもらうことです。選挙に立候補して、たくさん投票してもらい、当選すると議員になれます。25歳になれば誰でも立候補できますので、もしもなりたいと思ったら、ぜひチャレンジしてほしいです。



県立新田暁高等学校（参加議員：星野寛議員、加賀谷富士子議員、森昌彦議員）

主なやりとり（Q：生徒 A：議員）

- Q 通学路のバスの本数を増やしてほしいです。
- A 利用者が多ければ本数は増えますが、たとえ利用者が一人だとしても対応を考える必要があります。地元の県議会議員などと相談しながら、生徒の皆さんに通いやすい環境作りにしっかりと取り組んでいきたいです。
- Q 女性で初めての総理大臣が誕生しましたが、それについてどう思いますか。
- A 女性の視点を生かすことは政治の場でとても大事だと思いますが、性別で評価されるのではなく、その人が実行している内容や能力で評価されると良いと思います。
- Q 若者の投票率を上げるために、どのようなことをすればよいですか。
- A 例えば、選挙公報やSNS等で公表している政策をご覧いただいてから投票に行っていただくなど、政治をもっと身近に感じてほしいです。ただし、SNSは誤情報も多いと言われているので、その情報が本当に正しいかよく調べてほしいと思います。



新田暁高等学校での意見交換